

公 信 案

外 務 省

記

一月十五日佛島船廿新入港之際南洋興業ノ團手船ニテ
 荷役ヲ為サシタルハ廿新入港ヲ承認スルハ宜ク具フル候
 アルニ付今後カレトコト廿十ノ留意セラルレ度ニ
 坐礁船ノアラス山号梳去物ニ関シハ團内保全ニ依リ処置
 セラレ度ニ

（日本標準規格 B5）

發信用		執務用		懸案
主信	1	1	2	
附 甲				
乙				
丙				
屬 丁				
備考				

文書課長	文書課發送	昭和拾五年四月廿日發送済	淨書	正校 (原稿)	倉本 (淨書)
主管 政之權	普通	第一四五號	昭和拾五年四月廿日附	昭和十五年四月廿日起草	
受 台湾總督府外事部長	信 人	千葉 嘉一	名人信發	西 政 臣 長	
名 件	新南洋島之團手件	名件録記			
本件ニ関シ四月十日附外一第三三九号ノ一々四月十日附外 一第三五一号ヲ以テ回答並ニ付照會ノ次第アリタルハ 左ノ通り付回報申進ス					
公 信 案	外 務 省				

(13.6 4)

23 95

歐三普通第一四五號

昭和十五年四月二十三日

外務省歐亞局長 西 春彦

臺灣總督府外事部長 千葉 葵 一 殿

新南群島ニ關スル件

本件ニ關シ四月十一日附外一第三二九號ノ一及四月十二日附外一第三五一號ヲ以テ回答竝ニ御照會ノ次第アリタル處左ノ通り御回報申進ス

記

一、一月十五日佛商船無斷入港ニ際シ南洋興發ノ團平船ニテ荷役ヲ爲サシメタルハ無斷入港ヲ容認スル口實ヲ與フル惧アルニ付今後カカルコト無キ様留意セシメラレ度シ

外務省

(日本標準規格B5)

一、坐礁船「アスニー」號流失物ニ關シテハ國內法令ニ依リ處置セラレ度シ

外務省

(日本標準規格B5)

新南群島
燐石

燐石

燐石

燐石

電信寫

昭和16 一五六〇六 略 臺北 六月四日後發 本省 四日後着 歐

有田外務大臣 千葉臺灣外事部長

第一一三號

貨電第六七號ニ關シ(新南群島燐石採掘權ノ件)

新南群島ニ於ケル燐石採掘權ノ出願ハ客年四月二十五日以降之ヲ保留
セシメ置キタル處同年四月二十六日附ヲ以テ「バサ」礦業ヨリ亦五
月四日附ヲ以テ南洋興發ヨリ夫々出願アリタルモ九月七日附ヲ以テ
兩者共不許可トシ一方右保留期間中ニ本府ト海軍省ト協議ノ上同群
島ト最モ密接ナル關係ニアル興發ニ之ヲ許可スル方針ニテ九月八日
附ヲ以テ長島、南双子島及三角島ニ對シ右保留ヲ解除セル處直ニ興

發ヨリ右三島ニ對スル燐石採掘權ノ出願アリ他ノ者ヨリノ出願ハ未
タ無キ次第ナルモ採掘權許可ニ際シテハ先願主義ヲ執リ居ル關係上
自然前記三島ノ採掘權ハ興發ニ許可トナルモノト存セラル尙尾本ト
メノ關係者ト認メラルル尾本 ^{ムネジロ}ナル者ヨリ保留告示ヲ爲シ
タル當時同人ト同島トノ關係ヲ述ヘ出願ノ際ハ配慮相成度キ旨高雄
ヲ通シ申出アリタルモ未ダ正式ニ出願シ居ラサルヲ以テ詮議ノ餘地
無キ次第ナリ
平田ハ現在正式ニ權利者タルノ立場ニ在ラサルモ興發ト個人的ニ何
等申合アルモノノ如シ(了)

秘

六月十一日附馬要參謀長發軍務局長宛電報寫

新南群島情報六日寄港ノ佛商船ハ糧食多量建築材料約五噸ヲ揚陸「アス
ニ」號ノ貨物約四〇噸ヲ積載十日一一四五西貢ニ向ケ出港セリ同船便
ニテ在住佛人二名ハ一月ノ豫定ニテ旅行出發其ノ代理トシテ婦人二名及
建築關係者ト認ム安南人八名來島セリ
現在住安南人三五名。

(花崎精)

海軍

秘

一五六一一二

軍務局長

馬要參謀長

新南群島情報

發ニ同島ニ陸揚セル資材ヲ以テ建築ニ着手セントスル佛人ニ對シ我が警
官ヨリ不許可ノ旨申渡シタルトコロ彼ハ「日佛兩國ガ領土權ヲ主張スル
同島ニ佛國政府ノ命ニ依リ駐在スル自分ガ日本政府ノ命ニ從フ義務ナシ
」ト主張シ本十二日起工「グレイソン」小屋ヲ建設スル由(馬要機密第
四番電中代理トシテ來島ノ佛人二名トアルヲ一名ニ改ム)。

海軍

(花崎精)

了
下
大官

歐亞局

第三課長

(分類)

主管	歐亞局長	主任	第三課長	昭和十五年
電送第	19758	號		六月十五日起草
昭和	15. 6. 18	時	6分	
件名	新南群島ニ関スル件	宛	台湾總督府 千葉外務部長	發
件名	新南群島ニ関スル件	發	有田大臣	
配録件名				
第	八八	號		
	(至急)			

貴電第一二五号ニ関シ
在群島佛人及安南人全般ニ對スル措置
ニ付テハ充分考慮シ居ルモ目下對佛交渉

日本標準規格 B6)

此等中佐アリ
同志
六月十八日

中ナル各種懸案ノ中解決ニ近キモノアルヲ
以テ右ト睨メ合セツツアル情勢ナルニ付適
當ノ時期迄前記措置ハ尙暫ク差控ヘ
度モ貴電御未示ノ苦力小屋建設等
今後同島ニ新ジキ施設ヲ試ムルコトハ極
力之ヲ阻止セラレ度ク要スレバ強制スルモ
己ムヲ得ズト思考シ居レリ

日本標準規格 B6)

至急



昭和十五年七月二十六日

臺灣總督府外事部長 千葉 泰



歐亞局第三課長 石澤 豊 殿

外一第一七五號ノ二

新南群島情報ニ關スル件

新南群島居住佛蘭西人「ジャン・ビュロー」ト交代セル「ピエール・ドニー」カ安南人ヲ使役シ苦力小屋ノ建設ニ着手セル次第ハ襲ニ電報セル通ナル處現在同島ニ駐在スル警察官ハ僅カニ三名ニ過キス貴電御來示ニ依リ措置スル事甚タ困難ナル事情ニアリ馬公要港部ニ於テモ右事情ニ關シ軍令部軍務局長宛左ノ通打電セル由ナルニ付此段通報申進ス

臺灣總督府

記

「新南群島佛人ハ在島日本警察官ノ阻止ヲ押シテバラツク建設セル事遺憾ナリ、然レ共現地ノ狀況已ムヲ得サル點モアリ、之カ阻止限度等總督府ニ明示セサレハ將來現地ノミニテハ處理困難ノ點アリト認ム」

日本標準規格 B 4 (257 x 364)

REEL No. A-0449

發信用執務用			
主信	1	2	3
附	甲		
	乙		
	丙		
屬	丁		
備考			

次官
第三課長

文書課長

公文書	主 文書課發送	任 主 第三課長	淨書	昭和十五年	月	日	附屬	正(原稿)	(淨書)
機密	第一	號	昭和	年	月	日	附屬		
名 件	新南群島長島佛人退去ニ関スル件		名人信發	松岡大臣					
名 人 信 受	在京		名人信發	松岡大臣					
公 信 案	以書翰啓上致候。陳者新南群島ハ御承知ノ通り去ル。昭和十四年三月三十日附ニテ帝國領土ニ編入セラレタルヲ以テ同日以後同								

群島ニ在在スル一切ノ住民ハ本邦人タルトテ三國ノタルトテ問ハズ總テ帝國法令ヲ遵守スベキ次第ニ有之候。然ル処長島ニ在在スル佛國人並ニ佛國籍民タル安南人ハ從來累次ノ警告ニ拘現在ニ至ル迄帝國法令ヲ遵守スルコトヲ肯ニセサル処斯カル状態ノ存續ハ同島ニ於ケル治安ノ維持ヲ紊ルノミナラス延中テハ在留邦人トノ間ニ不測ノ事端ヲ

(日本標準規格 B 5)

(13.6 イ)

發生せしむる虞あるべく日佛同傳統的友好關係ニ鑑み甚だ好ましからざる次第ナルヲ以テ前記佛人及安南人ヲ撤去せしむる採御措至相成度尚右ニ應せらるる場合ニハ我方トシテ必要ナル手段ヲ採らば得かるニ至んばキ日通報スルノ責業ヲ有し候
 右申進旁、本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表し候
 敬具

(日本標準規格 B5)

新南群島長島庄住佛人安南人等別運者ニ至るは、
 (一五、八、二、五三)
 一、昭和十四年三月本國領土に入居せる佛國ハ本國領土に在り
 認め且長島ニ佛人ハ安南人ヲ殘留せしむるも其望ヲ
 設置シテ、陸路佛船入港ニ至らざるに於テ我方ハ其一部
 安南人ヲ退去せしむるに佛人ハ之ニ聽従せず
 二、北ニ至る海軍トシテ、本年九月上旬ヨリ本島施設撤
 去シ南島ニ移るに於テ八月廿二日佛人ハ
 安南人ヲ退去せしむるに於テ、佛人ハ之ニ聽従せず
 三、依り先ヅ日佛ノ手続トシテ、今般佛人ハ之ニ聽従せず
 去り安南ニ移るに於テ、日佛ノ手続トシテ、今般佛人ハ之ニ聽従せず

(日本標準規格 B5)

外務省

台湾總督府高雄州高雄市ノ管轄下ニ置キタリ然ルニ佛蘭西ハ右我
 方ノ措置ヲ容認セザルノミナラズ編入以前ヨリ同群島中長島ニ在
 住セシメ居リタル佛人及安南人ヲ引續キ殘住セシメ我方累次ノ警
 告ニモ不拘無電設備ヲ設置シ安南人住居小屋ヲ増設シ更ニ屢々右
 佛人ト連絡ノ爲佛國汽船ヲ入港セシムルノ行爲ニ出デ來レリ
 新南群島ハ經濟上ハ勿論軍事上ノ重要地點ニシテ本邦人ハ古クヨ
 リ長島ニ於テ開發事業ニ從事シ近來ハ同地ニ漁業根據地ヲ設ケタ
 ルガ帝國領土編入後ハ台湾總督府ハ同島ニ官憲ヲ派出スルト共ニ

(日本標準規格 B5)

外務省

公信案

其ノ積極的開發施設ヲ計畫中ナル處帝國法令ノ遵守ヲ肯ンゼザル
 前記佛人及安南人ノ在住ハ同島ノ治安維持上甚ダ不都合ニシテ彼
 等ノ撤退ニ關シ台湾總督府ヨリ從前再三措置振リ方指示ヲ仰ギ來
 レリ
 右ニ付我方トシテハ一方佛國政府ニ對シ嚴重抗議ヲ行フト共ニ他
 方時期ヲ見テ前記人員ノ強制退去方考慮中ナリシガ偶々帝國海軍
 ニ於テハ本年九月上旬ヨリ同島ニ海軍無電施設構築ヲ開始スルコ
 トニ決シ前記人員ヲ八月中ニ撤退セシムル様措置アリ度旨申出ア

(日本標準規格 B5)

外務省

公信案



111

リタリ
依ツテ此際更ニ佛國ニ對シ佛人及安南人ノ撤退方申入ヲナスコト
ナク海軍及台灣總督府ト協議ノ上適當ナル方法ヲ以テ強制
措置ニ出デ佛側ヨリ何等抗議アリタル場合退去事實完成ノ基礎ノ
下ニ應酬スルコト可然ト認ムルヲ以テ至急關係省ト協議ノ上前記
措置ニ出ヅルコト、致度
右仰御高裁

(日本標準規格 B 5)

公 信 案 外 務 省

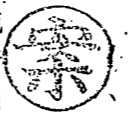
極秘

昭和十五年九月 日

軍務局長

馬要參謀長 (臺北在勤武官)

電報「極秘」



高雄通信隊長嶋分遣隊施設施行訓令ニ關シ方位測定所ノ位置ハ佛人ノ
 現居住區ト定メラレアルニ付在島佛人ノ取扱ニ關シテハ左ノ要領ニ依
 リ至急總督府ヲシテ處理セシムル如ク取計ハレ度

- (一)官廳工事ヲ理由トシ九月中ニ島内他ノ指定位置ニ移轉方強要ス
- (二)佛人所有無線ノ使用ヲ禁止ス
- (三)前二項ニ應ゼザル場合ハ退去ヲ命ズ之ガ時機及方法ニ關シテハ別ニ
 規定ム

海軍 (終)

至急古事見用
 九日十一日
 海軍通信隊長

極秘

一月二日

新南群島長嶋在住佛人退去ノ件

終

九月上旬ヨリ海軍施設構築開始

ノ予定ニ付八月中ニ佛人ノ退去
方取計ヲ行ハス

無詳

海軍

REEL No. A-0449

0449

陸軍部ヨリノ御
指示ヲ三月三日午後
トナリ
非シテ三月三日午後

(原議用紙乙)

辰ト由佛回ニ佛印ニ関スル政治的軍事的の線
 濟的諸条件ハ其ノ見達ニツキ至リタルヲ
 以テ此ノ際右構築ニ着手スルコトニ決定セリ依ツ
 テ左記ニヨリ至急措置セラルベシ
 (在留佛人(全南人ヲ含ム)三對シ
 三月三日以後)

(一)官廳工ヲ理由トシ九月中旬ニ島内地ノ指定
 位置ニ移轉方強要ス

(二)佛人所有ノ無線ノ使用ヲ禁止ス

電信案

外務省

次官

(分類)

電送第	30907 號	主管	歐亞局長
昭和	15年9月7日午後8時40分發	主任	第三課長
件名	宛 在甚北 千葉外務部長 新南群島居住佛人退去 ニ関スル件	發	松島大臣
第一四二號	記録件名		

往電第八八号ニ関シ

海軍ハ豫テ長島ニ軍事施設構築ノ予定ナ
 リ之虞最近印度支那ニ關シテ南緯急進ニ進

電信案

昭和一十五年九月十二日起草

17 46

(日本標準規格B5)

増子
田原
小倉

(三)前二項ニ應ゼサル場合ハ退去ヲ命ズ之カ時期
及方法ハ別ニ之ヲ定ム
(以上上海軍ト打合済)

(原議用紙乙)

電信課長
次官
大臣
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
會社
秘書官
寫送先

電信課長

大臣

次官

昭和15 三〇四七〇 暗 臺北 十月五日午後發
本省 五日夜着 米、歐
松岡外務大臣 千葉臺灣外事部長
第二一七號

貴電第一四二號ニ關シ(新南群島居住佛人退去ニ關スル件)
佛人所有ノ無電機ノ使用禁止ニ付テハ十月三日其ノ主要部分品ヲ
取外シ警察官吏派出所ニ保管シ事實上使用不能状態ニ置キタルカ
住居立退ニ付テハ佛國政府ノ命ニ非サレハ移轉セストテ之ヲ肯ン
セス如何ニ強要スルモ十月迄ニハ實施不可能ト認メラルルヲ以テ
根本的解決ヲ計ルヘク退去處分ニ附スルヲ可ト認メラルルニ付何
分ノ儀御指示ヲ請フ(了)

外務省

電信寫
秘

昭和15 三〇五九九 晴
 臺北 十月七日 午後
 本省 七日 夜差
 千葉外務部長

松岡外務大臣
 第二二〇號 (至急)
 往電第二一七號ニ關シ

目下所汽船新南群島ニ寄港シ本府ノ強制處置ニ關シ聯絡ノ手續ヲ
 行フニ付テハ至急退去處分致度キニ付本日申ニ何分ノ準備御座リ
 タシ

本取ノ退去セル由
 十月九日 野村佐三郎

千葉 野村

一五 一〇七

軍務局長

馬要參謀長

新南情報

其ノ後ノ電ニ依レバ六日來島中ノ佛船船長ト交渉ノ結果同船長ハ一應
當方ノ甲入レヲ承認シタルモノノ如ク日本側指定ノ場所ニ移轉スルカ
本船ニテ全部ヲ引揚グルカニ付本國ノ指令ヲ仰グベシト回答セリ
追テ同船今回ノ來島目的ハ客年來同島ニ坐礁シアル佛船解體ノ爲ニシ
テ之ガ承認方申出デタル趣ナリ。

海軍



一五 一〇八

軍務局長

馬要參謀長

新南情報

七日佛人ハ會社ノ指令ナリトテ指定ノ十日迄ニ家財全部ヲ纏メテ佛印
ニ退去スル旨表明
入港中ノ佛國商船ニ八日ヨリ荷積ニ着手 終了次第西貢ニ向ケ出港ス
ル趣
尙佛國人ノ一般情勢ハ至極平穩ニシテ本交渉ハ順調ニ進行中ナル由。

海軍

○ 紀念碑表面

日本國旗ノ下ニ「大日本帝國」ヲ彫付ク

○ 同裏面ニ彫付クヘキ文句

「大正七年五月一丸月」

池田金造、小松重利本群島ヲ探險ス

「大正七年十二月一八年一月」

小倉豫備海軍中佐ヲ隊長トスル第一

次「ラサ」燐礦株式會社探險隊本群

島ニ上陸調査ス

「大正九年十二月」

「ラサ」燐礦第二次探險、調査ヲナ

ス

「大正十年六月」

「ラサ」燐礦會社「イツアバ」島ニ

テ「グワノ」開發ニ着手ス

「大正十年十二月」

「ラサ」燐礦會社南双子島ニテ「グ

ワノ」探掘事業ヲ開始ス

「大正十二年九月一十三年」

「ラサ」燐礦第三次探險、調査ヲ行

フ

外務省

「昭和四年四月」

「ラサ」燐礦一時採掘ヲ中止ス

附記 昭和四年四月ニ帝國ニ依リ建立セラレタル記念碑破壞セル

ニ付此處ニ再建スルモノナリ 月 日

外務省

（南洋群島問題才五次我方回答）

歐三機密第一一號

以審翰啓上致候陳者佛蘭西政府ハ二月十七日附第四號貴翰ヲ以テ新南群島領有ニ關シ帝國政府カ佛蘭西ノ主權ヲ承認セサル次第ヲ確認セラルルト共ニ本問題ヲ仲裁裁判ニ附議センコトヲ提議シ越サレ候趣
閱悉致候

本件ニ關シ帝國政府ハ曩ニ二月九日附ヲ以テ佛蘭西政府ニ於テ新南群島領有ニ關スル主張ヲ撤回セラルルコトカ最モ穩便且實際的ナル問題解決ノ方法ニシテ亦傳統の日佛友好關係ヲ維持増進スル所以タル次第ヲ明ニシ至急同措置ニ出テラレンコトヲ要請致シ置キタルニ不拘佛蘭西政府カ今尙帝國ノ公正ナル主張ヲ否定セラルルト共ニ前記我方ノナシタル穩當ナル申出ヲ拒否セラレタルハ帝國政府ノ甚々遺憾



トスル所ニ候

尙佛蘭西政府ハ本件ヲ仲裁裁判ニ附議センコトヲ示唆シ越サレ候處帝國政府ハ仲裁裁判カ本問題ノ圓滿解決ニ關シ貢獻シ得ルモノト思考セス又右ニ附議スルノ必要ヲ認メサルモノニ候
右回答申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十四年三月二十九日

外務大臣 有田 八郎

佛蘭西國特命全權大使
「シャルル、アルセーヌ、アンリー」 閣下

極秘

要旨

新南群島測量ニ關スル對外應酬要領

新南群島ノ領有ニ關スル佛國ノ宣言ハ帝國政府之ヲ認メ非ズ帝國ハ過去及現在ニ於テ事實上ノ權益ヲ有スル本群島ハ之ヲ帝國ノ重大關心ヲ有スル無主ノ地ト認メナリ
土地ニシテ之ニ對シテハ他國ノ主權ヲ認メ得ズ
ニ測量艦艦長ノ應酬要領

(一) 領屬問題

- (1) 佛國ノ宣言ハ帝國政府之ヲ認メアラズ從テ佛國ノ領土トハ認メズ
- (2) 帝國ハ重大ナル關係ヲ有スル無主ノ地ト認メナリ
- (3) 帝國臣民ハ過去及現在ニ於テ事實上帝國領土ノ一部ト看做シ本島

海軍

(本田地)

(本田地)

(二) 作業

- (1) 本艦ハ吳鎮守府司令長官ノ命令ニ依リ所在帝國臣民特ニ漁夫ノ生命財產ノ保護ニ從事シツツアリテ兼ネテ漁船ノ安全ノ爲本群島及附近海面ノ測量ヲ行ヒ居レリ
- (2) 本艦ハ本年中行動ノ豫定ナルモ引揚時機ハ不明ナリ明年及夫レ以後ニ關シテハ知ラズ
- (3) 測量艇及測量班ハ凡テ本艦ヨリ派遣シアリ本艦ト同様ノ權利ヲ有ス

海軍

秘

今同佛國政府カ領有ヲ通告越シタル南支那海ニ於ケル諸礁島ハ從來諸國ニ於テ之ヲ踏査測量シタルコトアリテ其ノ所在ハ諸國海圖ニ明白ニ記載セラレ而モ無主ノ地トシテ一般ニ認メラレ積極的ニ之カ開發ニ從事シタルモノナカリシ處我方ニ於テハ天正七年以來「ラサ」^{（馬）}燐礦會社^{（株）}於テ同礁島ノ「グアノ」及燐礦採取其他ノ資源開發ノ目的ヲ以テ二回ニ亘リ十一島嶼ノ詳細ナル現地調査ヲ行ヒタル上大正十年ヨリ「イツアバ」島ニ於テ同十二年ヨリ「ノースデンジャー」・サウスウエスト・ケー」ニ於テ巨額ノ資本ヲ投下シ夫々棧橋、軌道、倉庫、事務所、宿舍ノ如キ永久的施設ヲ設ケ職員五名乃至七名外ニ醫師一名鑛夫六〇名乃至一三〇名ヲ常置シテ

印子

は(ト)

本印人ニ
於テハ
燐礦採取
ノ踏査
ニシテ
アリ

外務省

8.7

(三) 俄禮關係

本群島ハ無主ノ地ニシテ其ノ性質公海ニ準ズルヲ以テ對外儀禮ハ公海ニ於ケル場合ヲ準用ス

(四) 外交交渉

艦長ハ司令長官ノ命令ニ依リ本任務ニ從事シツツアリ外交上ノ應酬ニハ介入セズ要スレバ帝國政府ニ交渉セシム
司令長官ノ命令ニ依ルカ又ハ艦長必要ヲ認メザル限り現地ヲ退去スルコトナシ

(本川瑛)

海軍

組織的ニ此等諸島ノ開發ニ從事シ大正十一年ヨリ昭和四年迄ノ間
二十一回汽船ヲ往復セシメ「グアノ」二萬六千噸ヲ積出シタリ偶
々昭和四年春經濟界不況ノ爲同會社ハ一時事業ヲ中止スルノ余儀
ナキニ至リ社員及従業員ヲ引揚ケタルモ永久的諸施設及多量ノ採
取鑛石ハ一切其儘之ヲ殘置シ景氣回復次第再ヒ經營ヲ開始繼續セ
ムトスルノ^ミ状態ニ在リ而シテ帝國政府ニ於テハ「ラサ」燐礦
會社ノ前記經營ハ當初ヨリ之ヲ承認シ且各般ノ^檢傳其ヲ供與シ來レ
ル次第ナリ

ニ敍上ノ如ク他國側ニ於テ本件島嶼ノ開發ノ如キハ何等願ミル所無
カリシ時ニ於テ獨リ本邦人ノミカ數年ニ亘リ多額ノ資本ト多大ノ
勞力ヲ常時之ニ注キ各般ノ永久的施設ヲ設ケテ公然組織的ニ開發

外務省

ニ從事セルノ事實ハ以テ本邦人カ本件ノ島嶼現實且廣汎ナル繼續
的占有及使用ヲ爲セルコトヲ實證スルモノナリ而シテ過去四年間
本邦人カ本件島嶼ニ於テ經營ニ從事セサリシコトハ事實ナリト雖
モ右ハ單ナル事業ノ一時中止ニ過キスシテ同島嶼ノ占有及使用ヲ
拋棄シタルモノニ非サルナリ

ニ上記ノ如ク本邦人カ帝國政府ノ承認及援助ノ下ニ本件島嶼ヲ繼續
的ニ占有及使用セル事實ニ依リ帝國政府ノ同島嶼ニ對シ有スル權
利^ヲ「タイトル」^ズ及有形的利益^{（「」}「[」]インテレス[」]
ハ他國ニ於テ之ヲ尊重スヘキ義務アルモノニシテ而シテ前記本邦
人カ本件島嶼ヲ繼續的ニ占有及使用セルノ事實ハ帝國政府ノ同
前記本邦人カ本件島嶼ニ對シ單ニ航路標識ヲ建設セル等ノ事

外務省

建設トシテ等々事實ト到底對比スルヲ得ス

四加之佛國政府今回ノ先占ハ國際法上實效的占有ノ完了ヲ伴ハサル
モノナルコトヲ併セテ指摘スルモノナリ

佛國政府カ上記ノ關係ヲ考慮スル所ナク且前以テ帝國政府ノ意嚮ヲ
確ムルコトナク俄ニ本件島嶼ノ領有ヲ通告スルノ舉ニ出テラレタル
コトハ帝國政府ノ據據トスル所ニシテ著敷我方輿論ヲ刺戟シ遂ニハ
日佛親善關係ニ對シテモ面白カラサル影響ヲ惹起スヘキヲ虞ルルニ
依リ帝國政府ハ佛國政府カ本件ニ付同國政府ノ深甚且友好的ナル考
慮ヲ加ヘラレムコトヲ要請スルモノナリ

外務省

政務局長

第三課長



新南群島由題一箇ニ付テ
答へ返す

督促一件

十二月二十四日午後御同ハルヒ
以テ多ク御旨、井上
政務局長ヲ来訪ニ新南群島由題ニ関
スル公文回答ヲ成ルニシテ速ニ
答へ返す事ヲ御旨ニ奉
ルニ付、希望ニ局長ヨリ成ルニシテ速ニ
答へ返す事ヲ御旨ニ奉
ルニ付、本年ハ休日多ク爲テ、明年ニ入ルニト

外務省

ナルヲ保シ難キ旨回答ニ置ケリ

(政ニ其謝行記)

外務省

大正六年
三
四

南洋群島年代記

一	大正七年正月十九日邦人七松、池田、西名、群島発見（邦人三島市探検）
一	大正九年五月 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	大正九年十二月 邦人探検
一	大正十年一月 邦人探検
一	大正十二年 南双島
一	二月 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	九月十日又翌十三年 未探検地
一	大正十四年 邦人探検

外務省

南洋群島年代記
一、邦人探検
二、邦人探検
三、邦人探検
四、邦人探検
五、邦人探検
六、邦人探検
七、邦人探検
八、邦人探検
九、邦人探検
十、邦人探検



一	昭和四年三月 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	昭和四年四月 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	昭和八年七月十三日 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	七月十日 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	七月廿四日 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	七月廿五日 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	八月十日 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	八月十五日 邦人探検外三島 邦人探検外三島
一	八月十九日 邦人探検外三島 邦人探検外三島

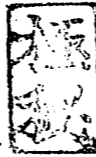
外務省

新南群島問題年代記

- 大正七年五月一九月 邦人小松、池田ノ兩名群島發見（邦人ニヨル最初ノ探險）
- 年十月七日附 右ニ關シ神山、橋本名儀ヲ以テ發見諸島ノ帝國版圖編入方外務大臣ニ願出
- 年十二月翌八年一月 ラサ嶼燐礦株式會社第一次探險
- 九年五月 齋藤外二名新南群島發見
- 年十二月 ラサ嶼燐礦株式會社第二次探險
- 十年四月 ヨリ右帝國領土編入方ニ付非公式ニ外務省、海軍省ニ意見ヲ求メ來ル
- 年六月 齋藤外二名第二回調査
- 年六月 ラサ嶼燐イツアバ島ニテ事業ニ着手
- 十二年 南双子島ニテ事業ニ着手

外務省

13.1



- 大正十二年二月 齋藤外二名群島發見屆ヲ海軍水路部長ニ提出
- 九月十月及翌十三年 未調査地探險
- 昭和四年三月 齋藤外二名、鈴木圭二名儀ニテ外務大臣宛 領有方陳情
- 昭和四年四月 ラサ嶼燐不況ノ爲引揚
- 昭和八年七月十三日 巴里電通通信
- 七月十八日 亞細亞局長、澤田參事官會談
- 七月廿四日 佛政府ヨリ新南群島正式先占通告
- 七月廿五日 佛國官報告示、七月十五日附
- 八月四日 外務次官、長岡大使會談
- 八月十五日 我方回答案閣議決定
- 八月十九日 澤田代理大使佛先占不承認第一次申入一政務通商局長

外務省

13.1

昭和八年九月二日 極東部長、澤田會談（以下會談ニ於テ常ニ佛ノ主權ヲ否定ス）

十一月十七日 政務通商局長、澤田會談

十二月九日 極東部長、澤田會談

十二月十一日 政務通商局長、澤田會談

十二月廿一日 外務大臣（ボンクール）佐藤大使會談（佛ハ仲裁裁判ヲ仄ス）

昭和九年三月廿八日 外務次官、佐藤會談（佐藤ヨリ我方ヨリ本件ヲ強テ取り上ケスト云フ）

昭和十一年 臺灣住人平田總督府援助ノ下ニ「イツアバ」島ニテ漁學開始無電發信設備設置

十二年十二月四日 佛國通報艦「イツアバ」島入港、千谷大佐ニ通告文手交千谷ヨリモ我方態度ヲ示セル文書手交

外務省

13.1

昭和十二年十二月四日 佛先占紀念物再建設

十二月六日 通報艦出港

十二月七日 佛外務次官、杉村大使會談

十二月九日 在京佛大使公文申入

十二月十四日 佛參事官、井上歐亞局長會談

昭和十三年一月十一日 我方公文回答（佛ノ主張ニ反駁ス）

一月廿四日 在京佛大使第二次公文申入

二月四日 佛參事官、歐亞局長會談

二月八日 佛大使、堀内次官會談

外務省

13.1

我乃稱造物之師付クキ又曰

抑之於南新島之經來其存在知ラズクニ是之祖傳的
ニ探候・開拓セルハ重ニ日本帝國臣民ヲ以テ嚆矢トス

即大正七年以來邦人ノ本島嶼ヲ探候スモノ相次ハ就中

ヲ以テ島嶼依格成合社ハカクノ又燐磁採取其地ノ資

源開發ノ目的ヲ以テ大正四年末至七年末ヲ以テ

先後ニ回ニ互リテ^{新島}島嶼ノ詳細志現地調査ヲ行ヒル上

公 信 案

外 務 省

大正丁年ヨリ長島ニ取テ同十三年ヨリ南双子島ニ取テ

多額ノ資本ヲ投下シテ西島開發ニ送リセリ故昭

和四年ノ經濟界ノ不況ニ遭ヒ設~~備~~備又多量ノ採~~掘~~掘

カ^ヲノ殘量ニシテ一時西島ヲ引揚ケタリ

帝國臣民ノ先配計勸ハ以テ於南新島ニ對シ帝國

ノ密接ヲ^付送スニテ十月ニ於テ帝國海軍ニ艦ハ照航

四年以來屬同新島ノ調査ニ赴ケリ

公 信 案

外 務 省

歐亞局長

歐亞局第三課長

歐三

「イツアバ」島所在佛蘭西無線電信局ニ關スル
在京佛大使發松岡大臣宛抗議文假譯

第三九號

以書翰啓上致候陳者佛蘭西政府ハ印度支那總督ヨリ「イツアバ」島
(Ile Ithaba)ニ所在スル佛蘭西無線電信局ガ日本官憲ニ依リ取
除シ押收セラレタル旨ノ通報ニ接シ候

本使ハ本國政府ノ命ニ依リ「スブラトニー」群島(I' Archipel des
Spratley)
ニ於ケル佛蘭西權益ノ新ナル侵害ニ對シ閣下ニ抗議致シ候

依テ本使ハ閣下ニ對シ「イツアバ」島ニ於テ執ラレタル日本官憲ノ
措置ニ對シ最モ正式ナル留保ヲナスノ光榮ヲ有スルト共ニ更ニ右不
當ニ差押ヘラレタル無線電信局ガ印度支那總督府ニ返還セラレンガ
爲ニ必要ナル命令ヲ發セラレンコトヲ希求致候
茲ニ再テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

(日本標準規格 B5)

外務省

千九百四十年十月十日

在京佛蘭西大使「シャルル・アルセーヌ・アンリー」

外務大臣 松岡洋右閣下

(日本標準規格 B5)

外務省

Ambassade
de la
République Française
au
Japon

Tôkyô, le 10 Octobre 1940

n° 39

Monsieur le Ministre,

Le Gouvernement Français a été avisé par le Gouverneur Général de l'Indochine que le poste français de T.S.F. situé sur l'Ile Ituaba a été enlevé et séquestré par les Autorités japonaises.

Il m'a chargé de protester auprès de Votre Excellence contre cette nouvelle violation de nos droits dans l'Archipel des Spratley.

J'ai donc l'honneur de faire auprès de Votre Excellence les réserves les plus formelles sur l'attitude prise à Ituaba par lesdites Autorités et je La prie en outre de vouloir bien faire donner les ordres nécessaires pour que le poste de TSF indûment saisi soit restitué au Gouvernement Général de l'Indochine ./.

15.10.14
Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération,

Charles Arsène Henry

Son Excellence

Monsieur Yosuke Matsuoka

Ministre des Affaires Etrangères

etc, etc, etc,

TOKYO

REEL No. A-0449

0449

電信課長

大臣

次官

東亞

歐亞

米洲

通商

條約

情報

文報

調查

人事

儀典

文書

會計

會社

秘書官

寫送先

昭和15

三一五一八

暗

臺北

十月十七日

後發
十七日夜着

歐

松岡外務大臣

千葉臺灣外事部長

第二二四號

貴電第一五五號ニ關シ(新南群島佛人退去處分ニ關スル件)

無電機使用禁止處分ニ關シテハ往電第二一七號ノ通りナル處住居

移轉ニ關シ當初頑強ニ拒絕シタル「ドミール」モ七日ニ至リ態度

軟化シ入港中ノ佛國船「ホーレン」號ニテ佛印ニ引揚ヲ承諾シ部

下ノ安南人ヲ督勵シ十一月十二時十五分總員三十四名前記「ホー

レン」號ニテ平穩裡ニ退去セリ尙家屋殘骸四、殘置セル少量ノ雜

品及國標一個ノ取拂ヒ並ニ其ノ後ノ取扱保管ニ關シ慎重ヲ期シタ

外務省

ク何分ノ儀御回電アリタシ(了)

外務省

2

次官

15.10.23

(分類)

電 信 案	在京佛大使ヨリ十月十日附書翰ヲ以テ抗議	長島ニ於ケル佛無電機ノ取外シ押收ニ関シ	貴電第二一七号ニ関シ	電送第 35333 號	主管 歐亞局長
				昭和十五年十月廿二日 起草	主任 第三課長
外 務 省	第一六九號	件名 宛	在台北 千葉外事部長	件名 宛	新南群島ニ於ケル佛無電機 差押ニ関スル件
		記録件名	發 松岡大臣	記録件名	發

電信課長

發電係

23 75

(日本標準規格 B5)

(分類)

電 信 案	佛人施設物件ニ付テハ國內法ニ依リ処理シ別段支障ナ キニ於テハ其儘残置セシメ度 國標ハ撤去ノ上適當 保管ニ置カレ度シ	電送第 34874 號	主管 歐亞局長
		昭和十五年十月廿二日 起草	主任 第三課長
外 務 省	第一六四號	件名 宛	在台北 千葉外事部長
		記録件名	發 松岡大臣

電信課長

發電係

19 3

(日本標準規格 B5)

REEL No. A-0449

0449

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人典 儀典 會計 秘書官

電信課長

大臣

次官

14102-1

電信案

外務省

越スト共ニ右無電機ノ印度支那總督府宛返還
 方要求アリタル處右現地ニ於テ引續キ保管乃至
 使用スルノ必要ナキニ於テハ成可ク佛印側ニ引取ラ
 セル様致度ニ付何分ノ處置方用電相成度シ

（日本標準規格B5）

昭和15 三二七三八暗

臺北 十月三十一日 後發
本省 三十一日夜着

歐

松岡外務大臣

千葉臺灣外事部長

第二二一號

貴電第一六九號ニ關シ（新南群島ニ於ケル佛無電機差押ノ件）

無電機ノ引渡場所ニ付海軍側ト打合セタル處海軍側ニ於テハ長島
 ニテノ引渡ハ都合悪キ旨ノ申出アリタルニ依リ十一月月上旬高雄入
 港豫定ノ南洋興發會社所屬萬榮丸ニテ高雄ニ運搬ノ上高雄水上署
 ニ於テ引渡スコトニ致度シ
 貴見何分ノ儀同電アリタシ（了）

外務省